



香川の 土地改良

発行所

香川県土地改良事業団体連合会

高松市番町 2 丁目 4 番 27-301 号

TEL (087) 822-0303

FAX (087) 851-1787

ホームページアドレス

<http://www.midorinet-kagawa.or.jp/>



疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキング 20 年 11 月 16 日

目 次

- 1. 国営総合農地防災事業「香川地区」完工式挙行 2
- 2. 農地・水・環境保全向上対策シンポジウム開催 3
- 3. 「農業農村整備の集い」開催／秋の叙勲 泉川理事長受章 4
- 4. 丸亀市内全土地改良区合併予備契約に調印 5
- 5. さぬき“水の歴史考”(64) 高松藩の水利調整
「四国作家」 同人 平井 忠志 6~7
- 6. 「香川用水土器川沿岸農業水利事業所」開所式開催 8
- 7. コスモス祭り開催 9
- 8. レンコン収穫祭 in 引妻池／「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2008 10
- 9. 疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキング開催 11
平成 20 年度魅力ある田園空間づくりブロック研修会開催 11
- 10. 会と催し／第 17 回公渕菊花展 12

国営総合農地防災事業「香川地区」完工式挙行

国営総合農地防災事業「香川地区」が平成 20 年度をもって完了の運びとなり、11 月 5 日に高松市のアルファあなぶきホール（香川県民ホール）において、中国四国農政局主催により完工式が行われた。

式典には、主催者側から中国四国農政局関岡英明局長、農林水産省農村振興局齋藤晴美整備部長、香川農地防災事業所木下勝義所長をはじめ幹部の方々、また、来賓として香川県真鍋武紀知事、香川県議会山本直樹副議長、衆参国會議員、香川県の幹部、農業団体の方々、さらに地元から関係市町長、市町議会議長、土地改良区理事長、ため池管理者など関係者約 300 人が出席し、事業の完工を祝った。

冒頭、関岡農政局長は式辞で「地域の財産であるため池は、かんがい用水源のみならず、洪水の防止、地下水のかん養、潤いのある水辺空間の形成、さらには地域文化の伝承など、地域社会と密接に関係した重要な役割を果たしており、本事業で整備したため池を地域の財産として大切に守っていただくと共に、地域のさらなる発展につながることを心より期待する」と述べた。続いて、齋藤整備部長の挨拶、真鍋県知事等来賓の祝辞があった。

この事業は、県内 14,600 箇所余りあるため池のうち本県農業の生命線でもある香川用水の水で結ばれた大規模なため池のうち、緊急に改修が必要な 198 箇所を対象に平成 5 年度から進めていた事業である。今年度で工事が完了し、これにより讃岐平野のほぼ全域にわたる農地約 1 万ヘクタールの農業用用水の安定的な確保と、ため池の決壊による災害の未然防止が図られる。

完工式に引続き執り行なわれた香川地区国営総合農地防災事業推進協議会主催の記念祝賀会では、池田会長から完工の喜びと事業に従事された国、県、関係市町の職員に感謝の意が表され、終始笑顔の絶えない宴となった。



関岡中国四国農政局長の式辞



齋藤農村振興局整備部長の挨拶



真鍋県知事の祝辞



祝賀会で挨拶する池田事業推進協議会長

受益面積	10,138ヘクタール
関係市町 (8市6町)	高松市、丸亀市、坂出市、善通寺市 観音寺市、さぬき市、東かがわ市 三豊市、三木町、宇多津町、綾川町 琴平町、多度津町、まんのう町
総事業費	460億円(20年度当初)
工事内容	ため池改修198、導水路改修11
工事期間	平成5年度～平成20年度

「農地・水・環境保全向上対策 シンポジウム in かがわ 2008」を開催

「農地・水・環境保全向上対策シンポジウム in かがわ 2008」が、11 月 16 日に丸亀市のアイレックス（丸亀市綾歌総合文化会館）において農地・水・環境保全向上対策東讃地域協議会、中讃地域協議会、西讃地域協議会主催により開催された。

シンポジウムには、主催者側から東讃地域協議会十川昭五副会長、中讃地域協議会池田長義会長、中讃地域協議会千葉宗和副会長、また来賓として、香川県農政水産部農村



整備課高尾武司課長はじめ香川県土地改良事務所の方々、事例発表者では活動組織の井上川西さりげなクラブ谷直樹代表、山田地域保全活動組織松岡正博代表、油井水土里保全組合牧野忠弘副代表、及び活動組織の農業者や非農業者、市町、土地改良区、農協など関係者約 525 人が参加した。

中讃地域協議会池田会長の開会挨拶の後、農村整備課高尾武司課長により平成 19 年度の農地・水・環境保全向上対策の実施状況報告の説明が行われた。休憩を挟んで活動組織の事例発表として、東讃地域協議会の井上川西さりげなクラブ谷直樹代表から「耕作放棄地発生防止の取り組みと集落景観形成の実現」と題して写真等を使っての活動内容、中讃地域協議会の山田地域保全活動組織松岡正博代表から「ほ場整備が生んだ集落営農組織と自治会との共同活動コラボレーション」と題して農地・水・環境保全向上対策のモデル事業からの取り組みをしてきた経緯から貴重な経験の事例、また、西讃地域協議会の油井水土里保全組合牧野忠弘副代表からは「ワークショップや耕畜連携など新たな取り組みにチャレンジ」と題して地域の状況などを伝えた。その後、意見交換会において各活動組織から県の高尾課長、事例発表者に対して質問が出され、活発な意見交換がされた。最後に中讃地域協議会千葉宗和副会長の挨拶があり、シンポジウムは盛会裡に幕を閉じた。



事例発表する谷氏



事例発表する松岡氏



事例発表する牧野氏

「農業農村整備の集い」開催 ～21 世紀の「水」「土」「里」の創造を目指す農業農村整備～

去る 11 月 18 日、東京都新宿区の日本青年館大ホールにおいて「農業農村整備の集い」が、全国の土地改良関係者多数参加のもと盛大に開催された。

はじめに「第 9 回ため池のある風景」写真コンテストの表彰式が行われ、選出された 34 点の作品が表彰された。続いて、社会基盤整備に尽力した土木技術者八田與一氏の烏山頭ダム建設にまつわる奮闘にスポットを当てて製作されたアニメーション映画が上映された。

その後、本大会に入り、全国水土里ネット野中会長は挨拶の中で最近の農業情勢に触れ、あらゆる食料品の価格が高騰の兆しを見せ、国民生活に大きな不安が押し寄せてきているため、食料自給率の向上が必要である。また、水と土と里を国民共有の財産として後世に残すため行政と連携して保全することが必要と述べた。

来賓紹介の後、全国水土里ネットの吹田副会長が議長に選出され、議事に入り、平成 21 年度農業農村整備事業予算について情勢報告が行われた。更に、意見発表、今後の農業農村整備への提言があった後、決議文が読み上げられ満場一致で採択し大会は盛会裡に終了した。



秋の叙勲 泉川理事長に授与される

2008 年秋の叙勲受章者が 11 月 3 日付けで発表され、県関係では県内在住者 56 名と県外在住者 5 人の計 61 人、土地改良関係では、旭日双光章を本会理事で香川県内場池土地改良区理事長の泉川静雄氏（85 歳）が受章された。

泉川理事長は昭和 29 年に旧由佐村原土地改良区監事に就任し以降 31 年から昭和 48 年まで同改良区事務局を担当、また、昭和 31 年には香川県内場池土地改良区の事務局に入り昭和 62 年まで務めた後、推されて理事長に就任され現在も奉職されています。更に、平成 2 年からは香南南部土地改良区理事長、平成 17 年には合併後の香南町土地改良区理事長としてご活躍され、

平成 9 年からは本会理事、平成 16 年からは香川用土地改良区理事に就任されています。土地改良関係以外の公職としては昭和 32 年 9 月に香川県香南町議会議員に当選以来昭和 48 年 9 月まで 16 年間議会で活躍され昭和 47 年から 1 年間議長を務められました。このほか、香川県収用委員、香川県内水面漁場管理委員、香南町社会教育委員、農業委員会委員等のほか各種の委員を歴任されています。

最近の土地改良区の事業取組みとしては、平成 18 年度から平成 22 年度の予定で農業水利施設の管理省力化を推進するための「新農業水利システム」や「県営基幹水利ストックマネジメント」事業により水路、ゲートの改修、補修を実施しています。

今後とも水・土・里に係わる事業を中心に地域の発展にご支援をいただけるよう益々お元気でご活躍されることをご期待申し上げます。



丸亀市内全土地改良区合併予備契約に調印

去る 11 月 11 日、丸亀市役所会議室において、旧丸亀市内の先代池土地改良区等 18 土地改良区の合併予備契約の調印式が挙行された。

調印式に先立ち県主催の香川県丸亀地区土地改良区統合整備推進協議会が開催され、会議の冒頭、香川県農政水産部土地改良課黒川課長から土地改良区は地域農業の発展と農業農村振興を図る上で重要な役割を担う団体であり、特に、土地改良事業の円滑な実施や土地改良施設の適切な保管理を担



富田推進協議会長挨拶

う組織となっている。このため、県においては土地改良区の体質強化を努めている。丸亀市では昨年の旧飯山町の合併に続き、本年は旧丸亀市の土地改良区の合併の話が進み統合されることになったことへの関係者へのお礼と今後の認可に向けた円滑な協議が進むようにと挨拶がされた。

続いて、丸亀市土地改良区統合整備推進協議会富田会長は市内の 18 土地改良区の全てが一つにまとまることが出来たことに対し関係者のご鞭撻に感謝するとともに新しい土地改良区が担う役割の推進、市との連携強化を図りたいと挨拶された。

丸亀市新井市長は農業農村を取り巻く環境が厳しい中、今回の合併は県下で最大級のものであり、県下の代表となるものである。合併に当たっては、各土地改良区の抱える財産関係の処理が大きかったと聞いているが役員の方々の組合員に対する十分な説明により正式の統合に至ったことへのお礼を述べた。



続いて、香川県中讃土地改良事務所西紋所長を議長に選出し、合併予備契約の審議が行われ、新土地改良区の基本となる事項が原案通り承認された。続いて、合併のスケジュールについて香川県農政水産部土地改良課明石副主幹から説明がされ、来年 2 月上旬に新土地改良区の認可を目指すことになった。

この後、18 土地改良区理事長と立会人として新井市長、西紋所長が合併予備契約書に署名押印を行い、最後に関係者全が合併記念撮影を行い調印式は滞りなく終了した。

合併予備契約調印土地改良区一覧

団 体 名	職名	氏 名	団 体 名	職名	氏 名
先代池土地改良区	理事長	竹内 效	丸亀市三条新池土地改良区	理事長	松原基義
蓮池土地改良区	理事長	田村元良	丸亀市三条町土地改良区	理事長	中川好親
宝幢寺池土地改良区	理事長	森里淳美	丸亀市下金倉瓢池土地改良区	理事長	西山 悟
丸亀市飯野土地改良区	理事長	稲尾正成	丸亀市庄之池土地改良区	理事長	秋山博文
丸亀市馬池土地改良区	理事長	久保丈夫	丸亀市田村池太井池土地改良区	理事長	香川 脩
丸亀市金倉町川東土地改良区	理事長	宮武好美	丸亀市土器町土地改良区	理事長	富家 優
丸亀市川西土地改良区	理事長	富田重義	丸亀市中津土地改良区	理事長	中川重徳
丸亀市郡家町大池宮池土地改良区	理事長	行成介志	丸亀市道池土地改良区	理事長	田所哲夫
丸亀市郡家町領家重元土地改良区	理事長	西風繁義	垂水土地改良区	理事長	吉田正明

さぬき “水の歴史考”

平井 忠志
（「四国作家」同人）

(64) 高松藩の水利調整

はじめに

江戸時代の後期に入ると、讃岐の水利は狭い領土をくまなく開発し尽くし、各所で水利権の競合が発生した。このため干ばつの年には水利紛争が絶えず、藩はその調整に頭を痛めることとなる。

ここに高松藩が紛争を事前に防止するため、水開発に先立ち、あらかじめ水利調整を命じた珍しい記録がある。その経過を追ってみることにする。

干ばつ集中年代

江戸時代後期の文化年間（1804～17）といえば、讃岐では干ばつ被害が集中した年代であった。記録によると文化元年、三年、五年、六年、十年、十一年、十四年とほぼ二年に一回の割合で発生している。（香川県大百科事典「讃岐干ばつ史」）

この時代の水利開発は郷普請（藩普請）、自普請を問わず、藩の許可が必要であった。毎年のような干ばつ被害を背景に、恐らく藩の普請奉行所には池の新築や増築願いが、目白押しだったに違いない。

谷池から御普請願

文化七年（1810）のことである。古高松村（高松市高松町）から、谷池の三尺嵩上げ願いが藩に提出された。谷池は古高松小学校の東800メートルの山麓にあり、10万トンクラスの池である。

「奥の坊」と呼ばれる溪谷の水を受けているのだが厄介なことに、谷池のすぐ下に菱池（しのいけ）（貯水量約5万トン）がある。従って菱池は直接流域を持たず、谷池の余水吐から落ちる水だけが頼りである。

谷池から堤の嵩上げ申請を受けた高松藩も、これには困惑したに違いない。

江戸時代中期の築造か

ところで谷池、菱池ともに築造年代は定かでない。両池とも讃岐の歴史書『翁媪夜話』（貞享3年・菊池黄山著）に名前が見えることから、江戸時代の中期以前に築造されたことは、間違いあるまい。

高松藩の水利施設台帳である『池泉合符録』（宝暦5年・1755）によると、谷池は高410石、菱池は高307石とある。これから当時の水掛かり面積を推定すると、谷池が三十数町歩、菱池は二十数町歩の水田を抱えていたものと思われる。



水利紛争を予測

谷池から嵩上げ申請を受けた藩は、当然ながら菱池との水利紛争を予測したのだろう。そこで藩は、谷池嵩上げ後の貯水の取り貯めについて、菱池水利と話し合いの上、協定を結ぶよう指導したのではなかろうか。

その経緯の記録は残っていないが、両池の水利が文化7年6月に結んだ協定書が残されている。

相語りて之を究む

協定書の題名は長い。『谷池堤、裏付上置御普請願ニ付、後年、下池（菱池）共、取溜方相語之ヲ究ムとある。

続いて両池の水の取り貯め方法を記述し、最後に役人に指示を仰いだ経緯が記されている。

『右ノ通り相究メ申候ニ付、皆池掛、百姓連判書付、双方取合候上ハ、右究書之趣ヲ以テ、時ノ村方御役人中、御指図ヲ請イテ申候、依ッテ件ノ如シ』

この協定書には、「菱池掛り百姓」として 48 人、「谷池掛り百姓」として 50 人が、それぞれ署名している。

八寸あて交互に貯水

ここに貯水協定の内容を現代文で要約して見よう。

- (1) 谷池の嵩上げ前の余水吐敷高に、分量石を設置する。その西側に菱池専用の落シユルを設ける。
- (2) 谷池が分量石まで貯まると、落シユルを抜いて菱池の余水吐敷高まで貯水する。
- (3) 次に谷池が三尺嵩上げ後の、余水吐敷高まで貯水する。
- (4) 次に菱池の余水吐を板で八寸せき上げ、満水させる。
- (5) 次は谷池の余水吐を板で八寸せき上げ、満水させる。
- (6) 以後は両池が交互に八寸あてせき上げ、満水させる。

そのあとへ、『少シモ異変之無キ様、相究メ置キ候事』と念押しの文言がある。

紛争は明治・大正・昭和へ

藩があらかじめ水利紛争を予測して、ここまで入念に指示し、両池の貯水協定を結ばせたにもかかわらず、干ばつの度毎に争いは絶えなかったようである。原因は両池の水不足であった。

そこで「県営古高松用水改良事業」により、両池の水不足を一挙に解消する計画が立てられた。新川の流水をポンプで谷池・菱池に揚水するもので、昭和 25 年に着工し同 27 年に完成した。

いわば高松藩の水利調整を、県が補強したようなもので、この事業により用水事情は、抜本的に解消された。

水利妨害罪？

だが昭和 40 年には、またもや激しい紛争が起きた。この起こりは谷池が前年の残り水を放流したことに始まる。魚を捕るために抜いたという。このため田植え前になっても菱池が満水しなかった。これに逆上した菱池掛りの農民が谷池の底樋の出口を、放流できないようにコンクリートで埋めてしまった。

谷池掛りの農民は怒り、「水利妨害罪」として高松警察署に訴えたので騒ぎは大きくなってしまった。警察署はことを穏便に収めるため、高松市の土地改良課長に両水利の調停を依頼した。

今は菱池公園に

調停を依頼された土地改良課長は、両池の余水吐を 20 センチあて交互にせき上げることで双方を得させた。さらに菱池がポンプで満水させた場合は、その揚水費用を谷池が負担することで決着を見た。

この紛争を調停した久保直太氏（当時の市土地改良課長）は、「苦勞しましたが、あの江戸時代の古文書の農民の連署に、私の曾祖父の名前もあるんです」と、感慨深げに語ってくれた。

現在は両池とも、都市化の進展で受益水田が減少し、菱池は半分が埋め立てられて高松市の「菱池公園」に変身し、のどかな佇まいを見せている。

「香川用水土器川沿岸農業水利事業所」開所式開催

国営農業用水再編対策事業「香川用水土器川沿岸地区」が平成 20 年度から着工の運びとなり、11 月 17 日に丸亀市の飯山市民総合センターにおいて中国四国農政局香川用水土器川沿岸農業水利事業所主催による開所式が行われた。

式典には、主催者側から関岡英明中国四国農政局長、中川敬夫同整備部長、有瀧昇吾事業所長をはじめ幹部の方々、また来賓として高木孝征香川県副知事、山本直樹同県議会副議長、池田長義事業推進協議会顧問、組橋啓輔同顧問、田中照明同会長代理、森里淳美並びに津村憲一同副会長、香川県幹部のほか、地元からまんのう町長、関係土地改良区理事長など関係者約 70 人が出席し、事業所の開所を祝った。

冒頭、関岡農政局長は式辞で「用水路などの重要な水利施設を末永く未来に引き継ぐことができるようにしっかりと整備することが私どもに与えられた債務であり、わが国の食料を確保すると同時に本事業地域の豊かな未来を築くために実施するものです」と述べた。

本事業地域は、県中西部の一級河川土器川沿岸にかかる地域で、県内有数の農業地帯であるが農業水利施設の老朽化が進み、漏水などにより維持管理に支障が生じているため国営事業で補修・改修を行い、農業用水の将来にわたる安定供給を確保するものである。一部の補修・改修水路については、水道用水を供給する重要なライフラインとなっており、水道事業管理者と共同で施工する予定。また、事業の実施に当たっては、自然生態系や景観の保全による環境への配慮を行いながら、防火用水への利用等農業用水が有する地域用水機能の増進を目指している。

開所式の最後に事業所の顔である看板掲示を行い、国営事業の実施に向けたスタートを切った。(農業水利事業所)



関岡中国四国農政局長の式辞



高木香川県副知事の祝辞



池田事業推進協議会顧問の祝辞



関岡農政局長、組橋推進協議会顧問、森里同副会長、津村同副会長による看板掲示

受益面積	3, 996ヘクタール
関係市町 (3市4町)	丸亀市、坂出市、善通寺市、宇多津町、 琴平町、多度津町、まんのう町
総事業費	150億円(18年度単価)
工事内容	用水路改修 L=57.9km 新設 L=3.4km ゲート等施設改修 1式
工事期間	平成20年度～平成28年度

コスモス祭り開催

さぬき市野間田東

農地・水・環境保全向上対策の野間田東環境保全組合は、さぬき市造田の東部に位置し、地区面積は 22.5ha でそのうち交付金対象農用地は 17.7ha の比較的小さな活動組織です。

活動組織は、農業組合法人野間田、(有)ファーム寒川、水利組合、野間田東自治会、長友会、子供会、地域の有志で構成したナイスミドル会、水土里ネット長尾、さぬきの水土里を守るネットワーク等多彩なメンバーが構成員になっています。さぬき市の方針で平成 19 年度は県営ほ場整備実施地区が対象であったことから、対象外の本地区は平成 20 年度から活動に取り組んでいます。

本地区は、毎月第 1 火曜日に定例役員会を開き、年間活動計画書及び予算執行計画表に基づき、当月及び次月の活動を協議しています。本年度の主な活動としては基礎活動の他、農地水向上活動としてゲート等の施設の維持補修及びパイプラインの維持管理研修を予定しています。また、農村環境向上活動では、資源循環(堆肥化)、子供会による生態系調査及び環境学習、景観対策として地域の主水源である蓮池に彼岸花・水仙の植栽、農地にはヒマワリ・コスモス・菜の花の植栽を実施して地域住民が年間通して花が楽しめるように計画しています。

去る 10 月 12 日には、第 1 回野間田東コスモス祭りを開催しました。当日は約 6,000 m²の農地に咲いたコスモスを目当てに地区周辺からも多数の参加があり、コスモス摘みや種子の採取、農道周辺のゴミ拾い等の地域環境美化を行いました。引き続き地域女性サークル「カトレア」の方々による大正琴、オカリナ、ハーモニカの演奏会があり参加者一同うっとり聞き惚れていました。更に、ナイスミドル会、さくら会によるドンジョ汁のふるまいのほか、農事組合法人野間田によるおにぎりとお米 2 合を提供する地産地消 PR も好評でした。

本取り組みにより、既存団体の活動も活発になり蓮池周辺の環境整備も行なうようになったことから、今回愛称募集を行いコスモス祭りの中で 5 案の中から「水辺の里蓮池」と決定されました。今後は、遊歩道の整備やベンチなどの休憩施設の整備等を進め、地域活動の充実・定着と、農業の再生による地域活性化の課題に取り組む予定です。

(野間田東環境保全組合)



コスモス祭り開会式の状況



活動及びコスモス祭り PR パネル



コスモス摘みや種子の採取



大正琴やオカリナの演奏会

レンコン収穫祭 in 引妻池

～農地・水・環境保全向上対策の取り組み～

まえだ環境保全組合（高松市）

汗ばむほどの天候に恵まれた 10 月 18 日、高松市前田西町の引妻池周辺で、「まえだ環境保全組合」が主催するレンコン収穫祭が行われました。まえだ環境保全組合は平成 19 年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組んでおり協定地区内にある引妻池にはハスが植栽されて、7 月に大輪の花を咲かせ地域住民の憩いの場となっています。

午前 10 時に開会后、早速レンコンの収穫に取り掛かりましたが、池の水はかなり引いているとはいえ、膝までの長靴はすぐに泥の中に埋まってしまいます。泥に足をとられて歩くのがやっと、という状況の中、助っ人として参加していただいた国営防災事務所の方々が、長さ 1m、直径 10cm 程の見事なレンコンを掘り当て、観客から歓声が起こっていました。また、近くの畑では小さな子供連れの家族らが参加して芋掘りを行いました。お昼前には、自治会や老人会の方々が事前に用意してくれていたキヌヒカリのおにぎりや、レンコンとさつまいもの天ぷら、ドジョウ汁などが参加者に振る舞われ、充実した収穫祭となりました。イベントを通して地域住民の絆が深まり、活動組織の活動を PR する良い機会になったと思います。これから先も持続していけるように努力してもらいたいと思います。

（香川県東讃土地改良事務所）



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2008

本県から明石実久さんが入賞・ほか 2 名が入選

全国水土里ネット、都道府県水土里ネットが主催した「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2008 に全国 12,411 点の応募の中から審査の結果、入賞作品 22 点、入選作品 110 点、地域賞 60 点が決まり、11 月 1 日、東京都港区新橋のスペース汐留において表彰式が行われ、本県からは、香川大学教育学部附属高松小学校 1 年の明石実久さんの描いた「楽しいおじいちゃんとのさんぼ」がトンボ鉛筆賞を受賞した。

また、香川大学教育学部附属高松小学校 4 年西岡佑真さんの「ふるさとの田んぼと水」、私立高松聖母幼稚園 4 才森 友喜さんの「だいすきなトラクター」がそれぞれ入選を果たした。



疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキング

11 月 16 日、水土里ネット香川用水による疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキングが開催された。このウォーキングは、香川用水が「疏水百選」に選ばれたのを機に実施しているもので、3 回目となった今年はさぬき市大川町みろく公園で実施された。

本イベントは県民の命の水として農業をはじめ産業経済の発展に役立っている「香川用水」やため池の役割や歴史について、香川用水の施設やため池を巡りながら理解を深めるとともに、歩きながら農村の持つ魅力の再発見を目的にしている。

当日は県内各地から約 160 名の参加があり、参加者は 4 班に分かれ記念撮影の後、のぼりを先頭に元気よく出発。弥勒池、富田茶臼山古墳、県営圃場整備揚水機場、東部幹線揚水機場、羽鹿池でそれぞれの説明を受けながら紅葉のみろく路のウォーキングを楽しんだ。



平成 20 年度魅力ある田園空間づくりブロック研修会開催

去る 11 月 20、21 日の両日に平成 20 年度魅力ある田園空間づくりブロック研修会が開催された。1 日目は、「ルポール讃岐」において、主催者である全国水土里ネット企画研究部阿武隆弘部長、そして開催県である水土里ネット香川山地孝士常務理事の挨拶の後、香川大学工学部角道弘文准教授による「魅力ある田園空間づくりを目指して」と題して農村地域づくりについて講演をいただいた。続いて小豆島町で活動している、中山農村歌舞伎保存会事務局矢田常寿氏により「地域の農村文化を守る」と題して、小豆島町中山地区で農村歌舞伎や棚田の伝統資源を守りながら自然のほたるの郷を整備し、魅力ある地域を創成する意義、考え方やその苦労や問題点を紹介いただいた。最後に水土里ネット香川用水総務課木村敏男課長補佐と同管理課鹿庭伸二副主幹から、平成 20 年度 21 世紀土地改良区創造運動大賞に選ばれた水土里ネット香川用水の概要と創造運動活動状況について説明していただいた。



2 日目は、フェリーで高松港より小豆島町池田港に渡り、研修初日に紹介のあった農村歌舞伎舞台と棚田がある小豆島町中山地区を視察。現地では中山農村歌舞伎保存会矢田徹会長による農村歌舞伎舞台の仕掛けや素人歌舞伎ならではの役者や裏方の苦労や失敗談を元役者である矢田会長の名調子で説明された。また、隣接する棚田では営農や保全の苦労と、天皇皇后陛下が行幸されたときの様子をエピソードを交えお話いただいた。



2 日間にわたる研修会は、参加者から意義のある研修会であったとの感想をいただき盛会裡に終えた。

会 と 催 し

開催月日	会 の 名 称	開催場所
11 月 5 日	国営総合農地防災事業香川地区完工式及び完工祝賀会	高松市
6 日	平成 20 年度農業土木技術研修会 (NN-CALS/電子納品)	岡山市
11 日	香川県丸亀地区土地改良区統合整備推進協議会	丸亀市
13 日 ~14 日	平成 20 年度土地改良換地関係訴訟検討会	鳥取県
14 日	平成 20 年度土地改良施設機能更新等円滑化対策事業研修会	徳島県
16 日	農地・水・環境保全向上対策シンポジウム	丸亀市
〃	疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキング	さぬき市
17 日	中国四国農政局香川用水土器川沿岸農業水利事業所開所式	丸亀市
〃	平成 20 年度第 2 回水土里情報利活用促進事業担当者会議	東京都
18 日	農業農村整備の集い	東京都
〃	香川県農林年金受給者連盟研修会	宇多津町
20 日	第 44 回農地集団化事業推進全国研究会	東京都
20 日 ~21 日	平成 20 年度魅力ある田園空間づくりブロック研修会	高松市
25 日	平成 20 年度水土里情報利活用促進事業管内検討会 (第 3 回)	岡山市
〃	香川県農業会議常任会議員会議	高松市

第 17 回 公 洩 菊 花 展



水土里ネット四箇池理事長賞



環境大賞

